

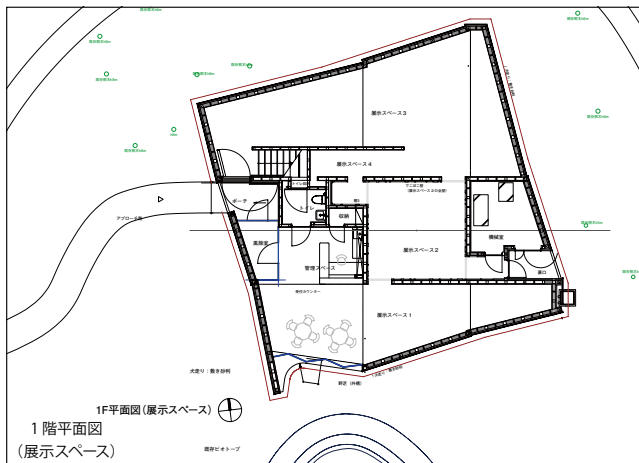
優秀賞

生活部門  
(北陸地区)

## MàRouの杜 (長岡造形大学展示館)



ピオトープに面する南ファサード



医師を職業とする画伯が、創作した絵画等を長岡造形大学に寄贈し、その絵画を一般公開するために、市民の善意からなる寄付金で建設された、公共建築の理念に合致した施設である。

大学構内を自由に散策している市民が気軽に立ち寄るほか、絵画の企画展を通じて地域住民への文化的貢献が高く、大学教育の教材としての側面を併せ持つ、優れた公共建築である。

「市民の、市民による、市民のための」を展示館のコンセプトとして、有志による委員会が設立され、作品の収蔵と展示を目的とした施設の募金活動が行われ、建設費が賄われた。

オープンな大学構内の展示施設で、常に地域住民に開かれていて、散歩する住民が、先生に引率された市内の小学生が、展示館を訪問する。また、年2回ほど画伯の企画展を開催するなど、展示施設を十分に活用している。

アルミとステンレスのスパンドレルを45度傾けて張った仕上げで、シンプルな外壁でありながら、意匠的な変化が周辺の風景から浮き上がり神秘的な感じを醸し出している。

小ぶりな外観と異なり、室内の展示スペースが広く感じられ、室内の採光では、外光と暗さによるコントラストから宗教的な雰囲気を感じられ、画伯の創作意欲に寄り添い、厳かな雰囲気を持つ展示施設である。



高窓からの自然光

|                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 所在地                    | 新潟県長岡市千秋 4-197 長岡造形大学内 |
| 敷地面積 (m <sup>2</sup> ) | 12,300.04              |
| 建築面積 (m <sup>2</sup> ) | 200.11                 |
| 延床面積 (m <sup>2</sup> ) | 299.33                 |
| 構造/階数                  | W造/地上2                 |
| 事業者                    | 長岡造形大学                 |
| 設計者                    | 長岡造形大学・山下秀之、江尻憲泰       |
| 施工者                    | (株) 大石組                |
| 竣工年月                   | 2013 (平成 25) 年 2 月     |
| 総工事費                   | 85 百万円                 |

### 設計について

君、キュビズ的に「幾何学」の演習をやってみたまえ。

はい。18度回転させた14m正方形に、5m巾の十字形を重ね合わせました。中心は不一致です。

君、それではハイスコアにならない。「分割」をしてみたらどうだ。

はい。十字形との接点で、正方形の辺をカットし、微妙な加減で折り、ずらし、再び辺として縫合しました。

君、そうか。では、「空間」の演習をやってみたまえ。

はい。十字形からはずれた正方形の4隅に高さを与えました。いびつな吹き抜けができました。ひとつだけ高さを変えました。

君、そうか。では、「光」の演習をやってみたまえ。

はい。十字形をかざぐるまのようにカットしました。その亀裂から4つの間に、東西南北の光をいただくことにしました。

君、そうか。では、「色」の演習をやってみたまえ。

はい。でも、先生、色…。

君、どうしたんだ？

はい。今、夢心地です。咲くのは色だけではないんです。人も街も、声も匂いも、昨日も明日も。ここはどこでしょうか…。あつ、丸山先生、待ってください。行かないでください。もつといろいろ聞きたいことがあるのです。先生…先生……

(竣工3カ月前、丸山画伯は100歳で逝去された。)

(山下秀之・長岡造形大学 教授)